

## 就農事例

### 大山俊彦氏

調査日 平成30年11月(就農後7年目)

所在地 東かがわ市町田

経営主 大山 俊彦 (39歳)

主要事業 露地野菜

主要作目 ネギ 120a  
ブロッコリー 40a  
ナバナ 40a  
ナス 10a  
パセリ 5a

就農タイプ 新規就農(兼業農家出身)

就農時期 平成24年10月

労働力 家族 本人  
常時雇用 1名  
臨時雇用

## ヒストリーあらすじ

・大山氏は東かがわ市の兼業農家出身で、専門学校卒業後、東かがわ市内でスポーツ関係の仕事に就職。兄が平成22年に就農したことをきっかけに、農業に興味を持つようになり、平成24年10月に自らも就農。ネギ40aから経営を開始した。

・高松市に在住していたが、就農を機に実家のある東かがわ市に転居。特に家や農地、倉庫等の確保に苦労した。

・就農2年目の平成26年には、ネギの他にブロッコリーやナス等の新規品目を導入し、また平成27年にはナバナを導入した。

・平成30年からは地域の特産であるパセリにも取り組んでいる。

## エッセンス

### ●ハングリ

・就農当初から、農地の確保、規模拡大、新規品目の導入、農地の購入、施設の導入、雇用の導入など、毎年いろいろなことに挑戦して、経営を発展させている。

### ●ワンステップ

・毎年挑戦をしているが、常に計画を重要視し、一段飛ばしではなく、一歩ずつ地道に前に進むことを心掛けている。

### ●ノーライフ ノーアグリ

・人生を豊かにするために、農業を選択。生活を壊さぬよう、バランスの良い経営を目指す。



始まりは、ネギ栽培から



夏場の経営安定のために  
取り入れたナス



冬から春にかけて、ナバナを栽培



大内の特産であるパセリを導入

## 大山俊彦氏 ヒストリー

就農前	就農期 平成24年～	確立期 平成28年～	発展・将来展望 平成30年～
<p>●他産業で勤務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学校卒業後、平成16年から東かがわ市でスポーツ関係の仕事に就職。</li> <li>・高松市在住</li> </ul> <p>●農業に関心を持つ</p> <p>実家が兼業農家であったこと、農業は自分のペースや計画で作業ができ、家族との時間を持つことができるため、関心があった。</p> <p>●兄の経営安定を見て、決意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年に兄が先に就農。</li> <li>・兄の就農を機に、勤務しながら、休日に農作業を手伝う。</li> </ul> <p>●兄の経営安定を見て、自分も若いうち(35歳まで)に農業にチャレンジすることを決意。</p>	<p>●平成24年10月独立・自営就農</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・退職して、平成24年10月就農。</li> <li>・農地を借り入れ、ネギ40aを栽培。</li> <li>・雇用なし。妻は農外勤務。</li> <li>・高松市から東かがわ市へ引っ越し。</li> </ul> <p>農地と借家を探すのに苦労した。家族に協力してもらったり、インターネット等で情報収集した。就農当初から計画性をもって経営、記録に努めた。</p> <p>●後継者クラブやJA部会等に参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の農業後継者クラブ等に参加した。</li> <li>・平成25年頃から、農地が集まり、様々な品目にチャレンジした。</li> </ul> <p>地域貢献することで、顔と名前を覚えてもらい、情報が入ってくるようになり、農地が集まるようになった。仲間との交流が刺激になった。</p> <p>●新品目の導入と規模拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年1月 認定新規就農者となる。</li> <li>・平成26年～ネギ1ha、ブロッコリー10a、ナス3a。</li> <li>・平成27年～ナバナを導入。</li> </ul> <p>・失敗もあるが、チャレンジ精神を持って、ナス、ブロッコリー、ナバナにトライ。これまでの経験や作業の効率性などを考えて、毎年トライ。</p>	<p>●平成28年農地を購入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地30aを購入。</li> <li>・育苗等のためにハウスを購入。</li> </ul> <p>ネギの残渣処理、作業場、資材置き場が必要なため、農地とハウスを購入した。さらに中古ハウスを購入して、将来、施設野菜導入の契機にした。</p> <p>●平成29年雇用開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農地や自分の性格に合う品目を模索</li> <li>・雇用を導入。まずは臨時雇用から。</li> <li>・農地の近隣で家を購入して、リフォーム。</li> <li>・トラクター更新のために、資金を利用。</li> </ul> <p>雇用を導入することで、新規品目の導入や規模拡大等、新たな経営展開に幅を持たせる。近隣やインターネット等からの情報収集に努め、経費節減に役立てた。</p>	<p>●平成30年パセリ導入。労働管理の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年5月、認定農業者となる。</li> <li>・これまでの露地野菜での規模拡大路線から、施設野菜を導入して、新たな経営展開に挑戦。</li> <li>・地元特産のパセリ(初夏どり)を導入。将来は、ハウスを利用した作型体系を考える。</li> <li>・臨時雇用から常時雇用へ。労働条件を検討していく。</li> </ul> <p>初めてのパセリ栽培に手ごたえを感じた。品目を絞って、農地も労働力に見合った規模にして、新たな経営展開へ。施設野菜を取り入れることで、女性の力を活かしたいと考える。</p> <p>●農家経営の発展をめざして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JAや地域に信頼される農業経営を目指す。</li> <li>・生産量と質の安定化を図るため、独自の技を追求する。</li> <li>◎家族が健康で生き生きと生活できる農家経営を目指したい！</li> </ul> <p>成功の秘訣は自分で探求していかなければならないと考えている。流通経路や売り方を提案できるような力をつけたい。</p>

大山俊彦氏 <課題と対応策>

フェーズ		就農前 ～平成24年	就農期 平成24年～	確立期 平成28年～	発展・将来展望
主な出来事		<ul style="list-style-type: none"> <li>●兄が帰農就農(平成22年)</li> <li>●結婚して、高松市に住む。子供2人</li> <li>●東かがわ市へ通勤。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●借地による農地の確保</li> <li>●東かがわ市へ引っ越し。借家</li> <li>●妻は農外勤務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農地の購入</li> <li>●雇用(臨時雇用から常時雇用)の導入</li> <li>●家の購入</li> <li>●子供3人となる。育児を機に、妻が退職。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設野菜の導入</li> <li>●雇用の増員</li> </ul>
経営課題	ヒト・組織	実家と妻の協力で就農準備	本人のみ(雇用なし) 認定新規就農者	本人+常時雇用1名 認定農業者	本人+雇用2名体制へ
	土地・設備	次男であり、農地や機械設備などほぼ一からそろえる必要があった。	農地は借入 設備投資	農地の購入 ハウスの購入	施設(ハウス)を規模拡大 施設野菜を導入
	カネ	自己資金を蓄える	運転資金・設備資金の調達 JA補助事業、青年就農給付金利用	運転資金・設備資金の調達 青年等就農資金、青年就農給付金利用	運転資金やハウス増設に向けて資金の確保
	技術・ノウハウ	農業に関心があり、通勤の休日などに、兄の農作業を手伝う。	先輩農業者やJA部会等で情報収集 普及センター講座に参加	いろいろ挑戦しながら、自分なりの技術やノウハウを構築中	施設野菜の技術を習得
	販売・販路	JA主体の出荷を想定	JA主体の出荷	JA主体の出荷	JA主体の出荷
	情報	東かがわ市、普及センター、兄や家族	JA部会、東かがわ市、普及センター、地元、先輩農業者、インターネット	JA部会、東かがわ市、普及センター、地元、先輩農業者、インターネット	地域へ情報発信できる経営を目指す
	地域	東かがわ市大内地区 (実家の近くで)	実家周辺、新規就農者の仲間が多い (地元に農業後継者クラブあり)	農地が集約できたところに自宅を購入。	JAや地域に信頼されるようになりたい
	具体的内容 (課題の内容)	栽培技術・経営知識の習得、農地や機械設備などほぼゼロからのスタート。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地や作業場、資材置き場の確保が必要。</li> <li>・農地や自分の性格に合った品目の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実家より少し離れたところに農地や家を確保。地域の人との交流を大切にしてきた。</li> <li>・農業機械や施設の導入。資金確保</li> <li>・労働条件を整備して、人材の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働力に応じた経営規模と品目の選定を行う。</li> <li>・安定した雇用の確保</li> </ul>
対応策 (課題にどう対応したか)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修制度等には利用していないが、実家や兄の農業を身近で見ることができた。</li> <li>・実家と家族に早くから就農の意向を伝え、協力体制を築いた。</li> <li>・インターネット等を利用して、農地や就農場所の情報収集に努めた。</li> <li>・自己資金の確保と初期投資の縮小に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業委員会や近隣農家へ訪問し援助して頂いた。</li> <li>・後継者クラブや地域行事等いろいろな会合に出席し、情報収集した。</li> <li>・若い仲間との交流が刺激になった。</li> <li>・計画を立てること、記録することで、次の経営に活かした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から、誠心誠意農地の管理・保全を行うよう心掛けた。</li> <li>・労働条件の整備のための検討</li> <li>・情報の収集と活用。無理な投資を避ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地や労働力、自分の性格、能力に合う経営の構築</li> <li>・安定した雇用のために、労働条件の整備</li> <li>・流通や売り方を提案したり、地域農業に対して発言できる力を付ける</li> </ul>
外部環境		※	※	※	※